

9 9 September 2013

あかいら

第713号
平成25年9月1日発行
(毎月1日発行)

[広報] Public Relations SAMEGAWA



【特集】

火災を防ぐ

あかいら
Public Relations SAMEGAWA

9 September 2013

平成25年9月1日発行(毎月1日発行)
第713号(昭和27年9月創刊)

発行/福島県鮎川村 編集/鮎川村環境企画課
〒963-8401 福島県鮎川郡鮎川村大字赤坂中野字第39番地5



Happy File_07 Wedding

関根千弥さん かおりさん

西山字大平/平成25年6月挙式

- 奥様の出身地はどちらですか? ... 棚倉町です。
- 2人が知り合ったきっかけは? ... お互いインディアカをやっていて、一緒に練習したり大会で顔を合わせたりしているうちに親しくなりました。
- 出会ったときのお互いの第一印象は? ... (夫→妻) 最初は「怖い」印象でしたが、話してみると優しい人 (妻→夫) 10代のときに会ったので、「若い」
- 子どもは何人ほしいですか? ... 今、1歳になる息子がいて、10月には2人目の男の子が生まれます。あと1人、女の子がほしいです。
- 理想の家庭は? ... 将来、家族みんなでインディアカができればいいですね。子どもたちには、スポーツなら好きなものをやらせたいと思います。

こちら 村長室

▼「天は自ら助くる者を助く」
天は他人の助力を頼りとせず自分自身で努力する者に力を貸してくれる。▼「原子力災害からの福島復興再生協議会」の席上、石原環境相が設置に向けた調整が難航している中間貯蔵施設に関して「県をはじめ皆さんが福島県のために自ら行動するという認識を持ってもらうことが重要」と発言したそうです。福島県民、特に避難区域の皆さんにとっては厳しい言葉です。地域振興のためにと安全神話の中での原子力発電産業。四十年間のにぎわいの代償としてはあまりにも辛すぎます。

▼国の責任で中間貯蔵施設を確保すると約束していますが候補地住民の反対は根強く、難航しています。「国の責任で丁寧に説明して理解を」と言っていますが、地元も市町村も積極的に国と協力し早期の整備に向けて努力すべきであり、今後、我が村も要望すべきことは伝えていきます。

大樂勝弘